名古屋大学博物館報告
Bull. Nagoya Univ. Museum
No. 21, 261–264, 2005

「栄衛中経図」の展示記録

Record of display of the “Ei e chukei zu”, woodcuts and explanation of human circulatory system, published by ISHIZAKA Sotetsu in Edo Period

西川　輝昭（NISHIKAWA Teruaki）

名古屋大学博物館
The Nagoya University Museum, Chikusa-ku, Nagoya 464-8601, Japan

はじめに

『栄衛中経図』は，江戸時代後期の著名な漢方医石坂宗哲が文政８（1825）年に刊行した，人体血管図と漢文によるその解説である．2003年末に名古屋市の医師富田洋氏から名古屋大学博物館に，２本の掛け軸の形で寄贈され，修復と解読が進められてきた．その完成を機に，2004年11月６日（土）から12日（金），折からの第４回企画展期間の最後の１週間にあわせて，「新着標本コーナー」において展示公開された．さらに，解読を担当していただいた杉山寛行名古屋大学文学研究科教授による，講演会とギャラリートークも開催された（図１）．以下に，展示の概要を記録し，補足的な解説を記す．なお，本図の表題について，原本では「榮」を使用しているが，簡単のために本文では「栄」を使用する．また，展示会場では，杉山教授による漢文解読（現代語訳）のパンフレットが配布されたが，その内容は，杉山教授が別に発表される．

図１　血管図展示でギャラリートークする杉山寛行名古屋大学文学研究科教授

図２　説明パネル

パネル１

『栄衛中経（えいえちゅうけい）図』

今から 180 年前の血管分布図

江戸時代後期の鍼灸の名医で，将軍家斉（いえなり）の侍医であった石坂宗哲（いしざかそうてつ，1770 ～ 1841）が文政 8 （1825）年に刊行したものです．

右が「榮」（動脈系）と「中経」（門脈系），左が「衛」（静脈系）を示します．図の出典は記されていませんが，オランダのパルヘインの人体解剖学書（1733 年刊）とも考えられます．

杉山寛行名古屋大学文学研究科教授の漢文解読によると，石坂は，中国医学の基本原理である経絡（けいらく）説を，西洋医学で明らかにされた血管分布にもとづいて新しく解釈し，中国医学の伝統的な見方のいくつかを批判しています（訳文はパンフレットにあります）．経絡とは体内を走って生命力を伝える仮想的な道筋ですが，彼はこの実体が血管であるとしました．

昨年末に名古屋市の医師富田洋氏から当館に寄贈され，修復と解読を進めてきました．

（**注記**）

図の本体はそれぞれ長さ約125cm，幅約57cmあって，血管系が赤，文章が黒で印刷されている．刊記により，文字は「外孫吉田秀哲」が書いたことがわかるが，この人は宗哲の孫娘の婿である（呉，1931b）．

京都大学附属図書館の富士川游文庫には，竿斎（石坂宗哲の号）の著書が相当数含まれているが，そのうちの『竿斎叢書子字号』（登録番号カ 233）や『定理医学叢書丑字号』（テ 8 ，テ 9 ，テ 10 として登録されたほぼ同じ内容の 3 冊があるうちの，テ 8 とテ 10）に，「竿斎叢書目録　定理医学書屋蔵版」として，彼の著書一覧が綴じこまれている．これによると，本図は『鍼灸知要一言』の付録として出版されたことがうかがえる．

同文庫には『鍼灸知要一言』と名がつくものが 2 種類ある．ひとつは，独立した 1 冊（シ 519），および『竿斎叢書』（カ 234）に合冊されているもので，いずれも，唐它山による文政丙戌（＝ 9 年，1826 年）の序文（ 2 丁分），続いて「知要一言」と題された 14 丁（版心に「鍼灸知要」として一から十四まで番号付け），そして 3 丁の「跋」で終わっている．「知要一言」の末尾には「文政九年皐月侍医法眼石坂宗哲識」と記されている．これを仮にＡ本とする．他は，上記『定理医学叢書丑字号』に合冊されたもので，它山による序文（ 2 丁分）がない．また，「知要一言」は 10 丁までしかなく，10 丁裏は 4 行目以降が空白となっていて， 2 行目まではＡ本とおなじだが， 3 行目が「文政九年皐月侍医法眼石坂宗哲識」となっている．「跋」についての相違はない．これをＢ本とすると，Ａ本にあってＢ本にない部分には，シーボルトがオランダ商館長に随行して江戸に滞在していたとき（1826年），彼のかねてからの要請に応えて，石坂が鍼灸術を教示し，鍼を施したことが紹介されている．また，石坂宛のシーボルトの手紙の翻訳も添えられていて，両者の交流がうかがえる．これらの内容の大要は，呉（1931a，b）や間中（1962）で見ることができる．

いずれの『鍼灸知要一言』においても『栄衛中経図』への言及が皆無であるのは，付録として出版されたにしては不思議である．なお，天保庚子（1840 年）刊の『内景備覧』（ナ 25）には，本図のことが「栄衛中経乃図」として 2 個所で触れられている．

呉や間中の記述から判断すると，Ａ本が出版されたと思われる文政 9 （1826）年よりも少なくとも数年前に，『鍼灸知要一言』の前身はすでに存在していた（初版というべきものであろう）．したがって，

它山による文政９年の序文を欠くＢ本がその初版に相当するとも考えられるが，前述した「文政九年皐月侍医法眼石坂宗哲識」との一行がＢ本にあることから，それは否定される．この日付を信用すれば、同年同月にＡ本とＢ本がともに出版の準備を終えたことになるが、これはいかにも不自然である。むしろ、B本が実際に準備されたのはもっと後のことで，A本のシーボルト関連記事をそっくり削除して制作されたものと考えることが十分可能である．そうであれば，この改変は，A本出版の２年後（1828年）に発覚したシーボルト事件にその原因を求めることができる．

ちなみに，Ａ本の影印は，『鍼灸医学典籍大系第14巻』（1978年，出版科学総合研究所刊）および『臨床鍼灸古典全書16』（1990年，オリエント出版社刊）で見ることができる．

パネル２

校正の跡

石坂の数ある著作のなかでも，この『栄衛中経図』はほとんど知られていません．公的機関では，当博物館と千葉大学附属図書館のほか，シーボルト経由でオランダのライデン大学とフランスのパリ国立図書館の，つごう４ヶ所が所蔵しています．

左：本館所蔵『衛図』の漢文７行目の末尾の欄外に，朱点と「為榮」が書き加えられています．

右：千葉大学附属図書館亥鼻分館所蔵品では，字の間隔を狭めて「為榮」を挿入した校正の跡が残っています．版木の訂正部分を削って新しい材で埋めているのです．このことから，名古屋大所蔵品の方が千葉大所蔵品よりも古い版だとわかります．

（**注記**）

千葉大学附属図書館亥鼻分館所蔵品は，慈恵会医科大酒井シヅ教授によって『図録 日本医事文化史料集成』第２巻（1977年，日本医史学会編，三一書房刊）において，その全体写真が紹介されている．本展示のための写真撮影をご許可くださった同分館に感謝する．

パネルでは触れなかったが，千葉大所蔵品と名大所蔵品との間のその他の違いとして，後者では，「衛図」の左端にある刊記で「侍医法眼石阪［ママ］宗哲撰」の下に朱印が縦に２つ並んでいるが，千葉大所蔵品にはこれがない．また，説明文や刊記（黒字）と血管図（朱色）との相対的な位置関係が微妙に異なる．それぞれが別の版木に彫られたためであろう．

国内における他の所蔵を確認するために『国書総目録』を一覧したが，本図は所収されていなかった．保管形態が冊子体でなく，一枚物ないし軸物であるために採録から漏れている可能性がある．ただ，同目録により，石坂宗哲著『血管分佈』２冊が「乾々斎文庫」に所蔵されていることを知った．本図と関係があるかもしれないので，同文庫を所有する武田科学振興財団杏雨書屋に問い合わせたところ，該当資料はないとの回答をいただいた．なお，稀に古書市場に本図が出ることがあるので，私蔵品は存在するはずである．

国外での所蔵については，Macé（1994）による（本論文のコピーは，社団法人北里研究所東洋医学総合研究所の小曽戸洋博士が送ってくださった）．なお，小曽戸博士に見せていただいたパリ国立図書館所蔵品の写真により，同品は名大所蔵品とおなじものであることがわかった。つまり、書き加えがあり，埋め木はなされていない．日ごろ何かとご教示をいただいている小曽戸博士に深謝する．

パネル 3

血管図の原典か？

1733 年に出版されたオランダのパルヘイン（Johan Palfyn）の人体解剖学書『Heelkonstige Ontleeding van 's Menschen Lichaam』（1733 年刊）にある血管分布図．『栄衛中経図』のもとになった図とも考えられます．写真の原本は九州大学医学部が所蔵．

（**注記**）

写真展示をご許可くださった九州大学附属図書館医学部分館に感謝する．展示終了後，パルヘインの血管図と酷似したものがすでに 1693 年に出版されていることを知ったので，参考のため記しておきたい．それは，国際日本文化研究センター所蔵のPhilippo Verheyen著“Corporis Humanii Anatomia, in qua omnia tam veterum, quam recentorium anatomicorum inventa” の第 27 図版（動脈系）および 28 図版（静脈系と門脈系）である．

関連講演会

名古屋大学博物館第 36 回特別講演会

名古屋大学博物館所蔵「栄衛中経図」について－江戸時代の血管図とその思想

講師：杉山寛行名古屋大学文学研究科教授

とき：2004 年 11 月 12 日（金）午後 3 時より

場所：博物館 3 階講義室

ギャラリートーク：講演会終了後， 2 階展示会場において

引用文献

呉秀三（1931a）徳川時代の有名な鍼醫法眼石坂宗哲．實踐醫理學，**1**, 243-247.

呉秀三（1931b）徳川時代の有名な鍼醫法眼石坂宗哲（續稿）．實踐醫理學，**1**, 355-371.

Macé Mieko (1994) The medicine of Ishizaka Sôtetsu (1770-1841) as cultural pattern of the Edo Period based on the example of Ei e chûkei zu (1825). *Studia Humana et Naturalia, Kyoto Prefectural University of Medicine*, **28**, 73-90.

間中喜雄（1962）石坂宗哲の時代と背景．漢方の臨牀，**9**, 803-820.